

氏名	國 定 寛 之
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 209 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和42年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	先天性筋性斜頸治療に関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 児 玉 俊 夫 教授 砂 田 輝 武 教授 大 内 弘

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

先天性筋性斜頸に表面電極法による筋電図検査を行ない、予後の判定を試みた。その結果生後4ヵ月で本症の予後の大略の判定ができた。また家兎の腓腹筋の筋電図の実験では筋の過伸展位固定によって筋電図的に強い変化を認めた。

本症26例に胸鎖乳突筋全摘出術を実施し、そのうち16例の術後6ヵ月以上の直接検診の結果、治療成績は優秀であった。そして手術時に副神経の走行の型をしらべ、胸鎖乳突筋を貫通するものと筋の裏面を通過するものとに分類した。さらに摘出筋の肉眼的変化、病理組織学的変化の検索から筋の病変部は筋の横断面では一部分であっても、筋の全長にわたっていることを証明した。

中部日本整形外科災害外科学会雑誌第10巻第1号（昭和42年3月1日発行予定）

論文審査の結果の要旨

先天性筋性斜頸は、新生児で2%ぐらいの高率に出現するが、そのうちの90%は保存的療法で治癒する。いかなるものが観血的療法を要するかを、EMG、摘出筋の病理組織学的方法により研究し、さらにその手術法におよんだ。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。